

(2) 首都直下地震の被害想定

ポイント!

最新の被害想定や地域の危険度等から、災害時の被害をイメージしましょう。

- 南関東においては、首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率が、今後 30 年以内に 70%といわれています。

◎首都直下地震による東京都の被害想定

(東京湾北部地震；M7.3)

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	約 147,600 (約 21,900)	人
		揺れ	約 129,900	人
		火災	約 17,700	人
物的被害	原因別	建物被害	約 304,300	棟
		揺れ	約 116,200	棟
		火災	約 188,100	棟
避難者の発生(ピーク:1日後)		約 339 万	人	
帰宅困難者		約 517 万	人	

冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

◎首都直下地震による板橋区の被害想定

(東京湾北部地震；M7.3)

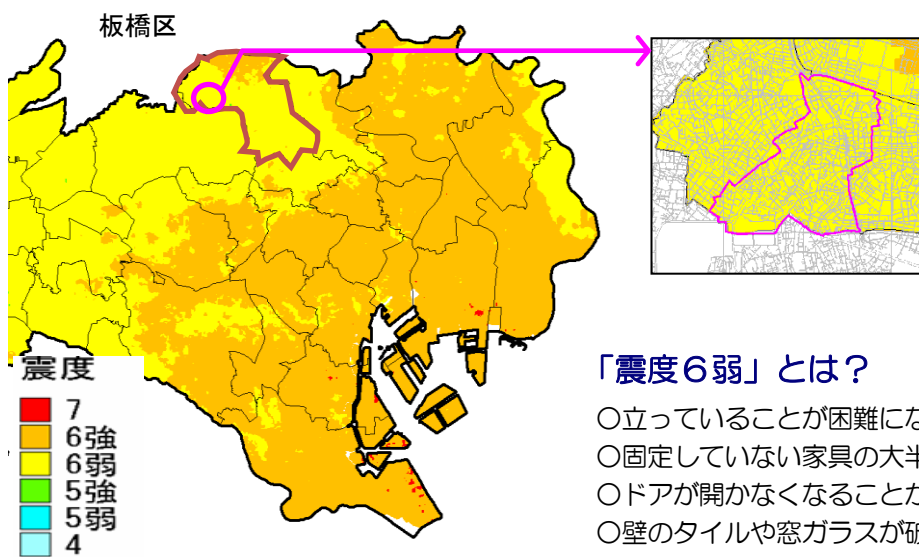
- 死者：81 人(0.02%)
- 負傷者：2,657 人(0.5%)
- 建物全壊：1,656 棟(1.8%)
- 建物焼失：747 棟(0.8%)
- 避難者：71,832 人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123 人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難者は夜間人口比で、帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の 18 時・風速 8m/秒の想定

◎首都直下地震による下赤塚地区の被害想定 (東京湾北部地震；M7.3)

想定震度分布



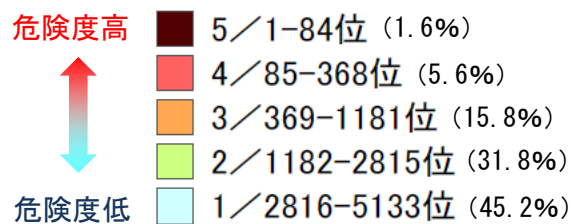
下赤塚地区は震度 6 弱の揺れが想定されている。

「震度 6 弱」とは？

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

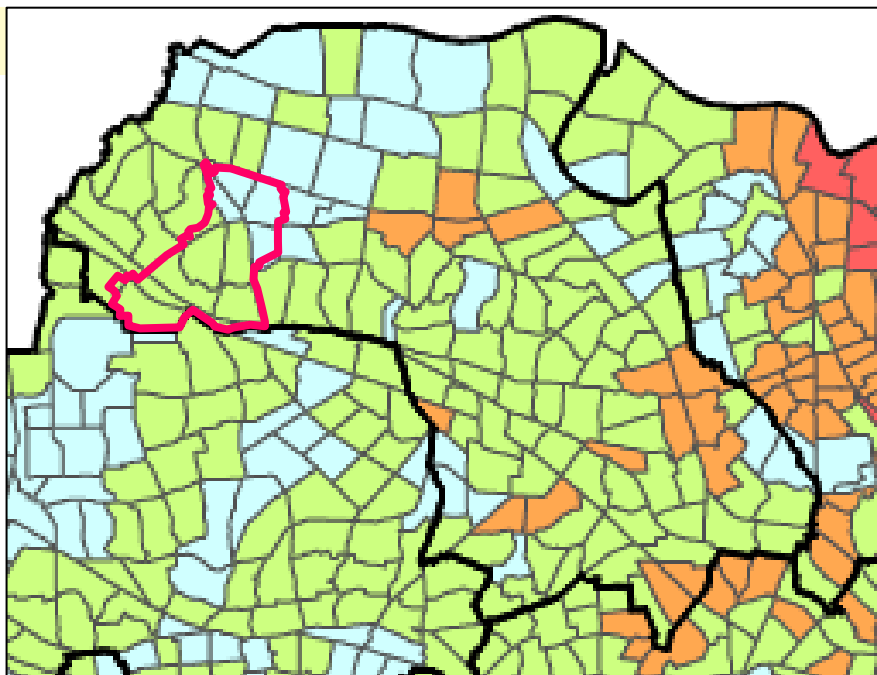
(3) 地震に関する地域危険度

町丁目別の地域危険度測定調査結果について、都内 5,133 丁目を相対的に 5 段階評価したもの。



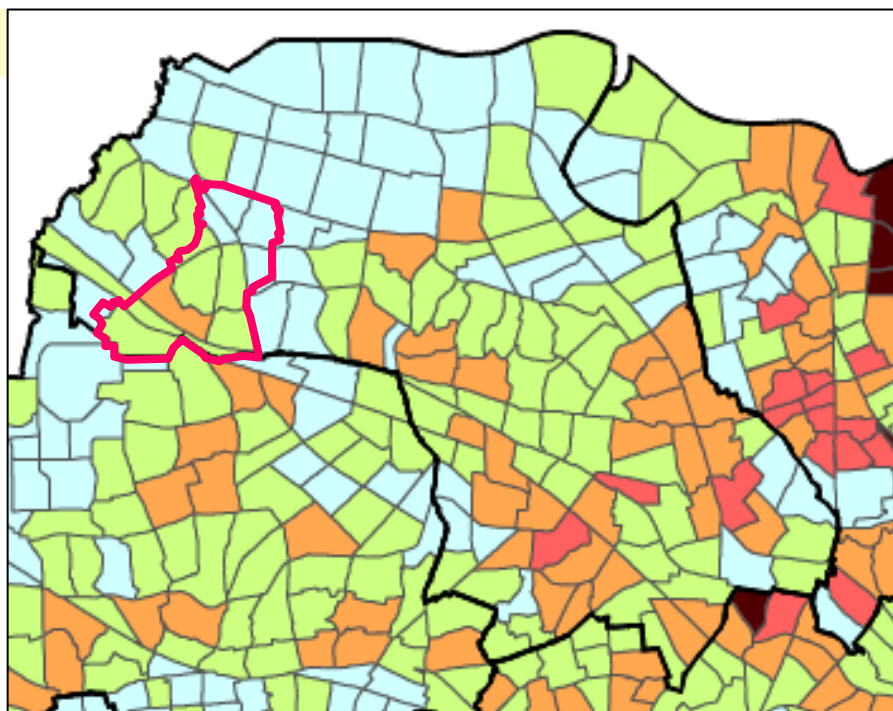
①建物倒壊危険度

○下赤塚全域が「危険度 2~1」と比較的低い。



②火災危険度

○赤塚二丁目が「危険度 3」と比較的高い。



[出典]東京都都市整備局「地震に関する地域危険度測定調査報告書」平成 25 年 9 月(公表)

(4) 液状化危険度

液状化危険度の分布

・250mメッシュでの評価。

○本地区北側の荒川低地で液状化の可能性がある。

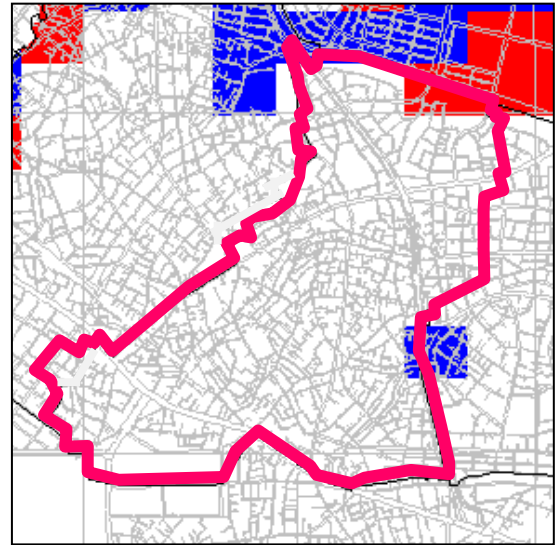
[出典]東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」平成24年4月18日(公表)

液状化危険度

■可能性高い

■可能性低い

□可能性なし



(5) 洪水ハザードマップ

新河岸川・石神井川版

・平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定。

○地区の一部に浸水の危険が想定されている。

大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m～2.0m	■
水の深さ 0.5m～1.0m	■
水の深さ 0.2m～0.5m	■



[出典]板橋区防災課「板橋区洪水ハザードマップ」平成17年7月

(6)「危険・資源マップ」の作り方

ポイント!

まち歩きをして、災害時の危険と防災上の資源を地図上にまとめましょう（「危険・資源マップ」）。



1)まち歩きの方法

- ①役割分担
(先導係、交通安全係、計測係、記録係等)
- ②準備物の確認
(地図、カメラ、巻尺、筆記用具等)
- ③まち歩きの視点を整理
(被害想定や下記のみち歩きの視点(例)を参考に、地域特有の問題点を考える)
- ④ルート決定
(時間配分も合わせて考える)
- ⑤まち歩きによる「まちの点検」を実施
(交通安全に注意して歩く)
- ⑥「まちの点検」結果のまとめ
(まちの危険・資源などを地図上に記載する)



まち歩きのまとめのイメージ

2)まち歩きの視点(例)

1. 災害時の危険

- 土地や地盤に関するもの
 - 旧河川沿いの浸水、液状化
 - 高く傾斜の大きい擁壁や階段
- 道路に関するもの
 - 急な坂道、階段
 - 狭い道路、行き止まり
- 建物、街並みに関するもの
 - 老朽木造住宅、老朽アパート、空き家
 - 高層マンション（落下物の恐れ）
- 倒壊、転倒しそうな建造物
 - ブロック塀（古い・高い・損傷のある）
 - 倒れそうな自動販売機
- 危険物施設、出火の可能性が高い場所
 - 古い（化学）工場
 - 危険物（LPG）貯蔵施設
- 社会的影響に関するもの
 - 幹線道路
(徒歩帰宅者、自動車通行による渋滞)
 - 要支援者が多いエリア

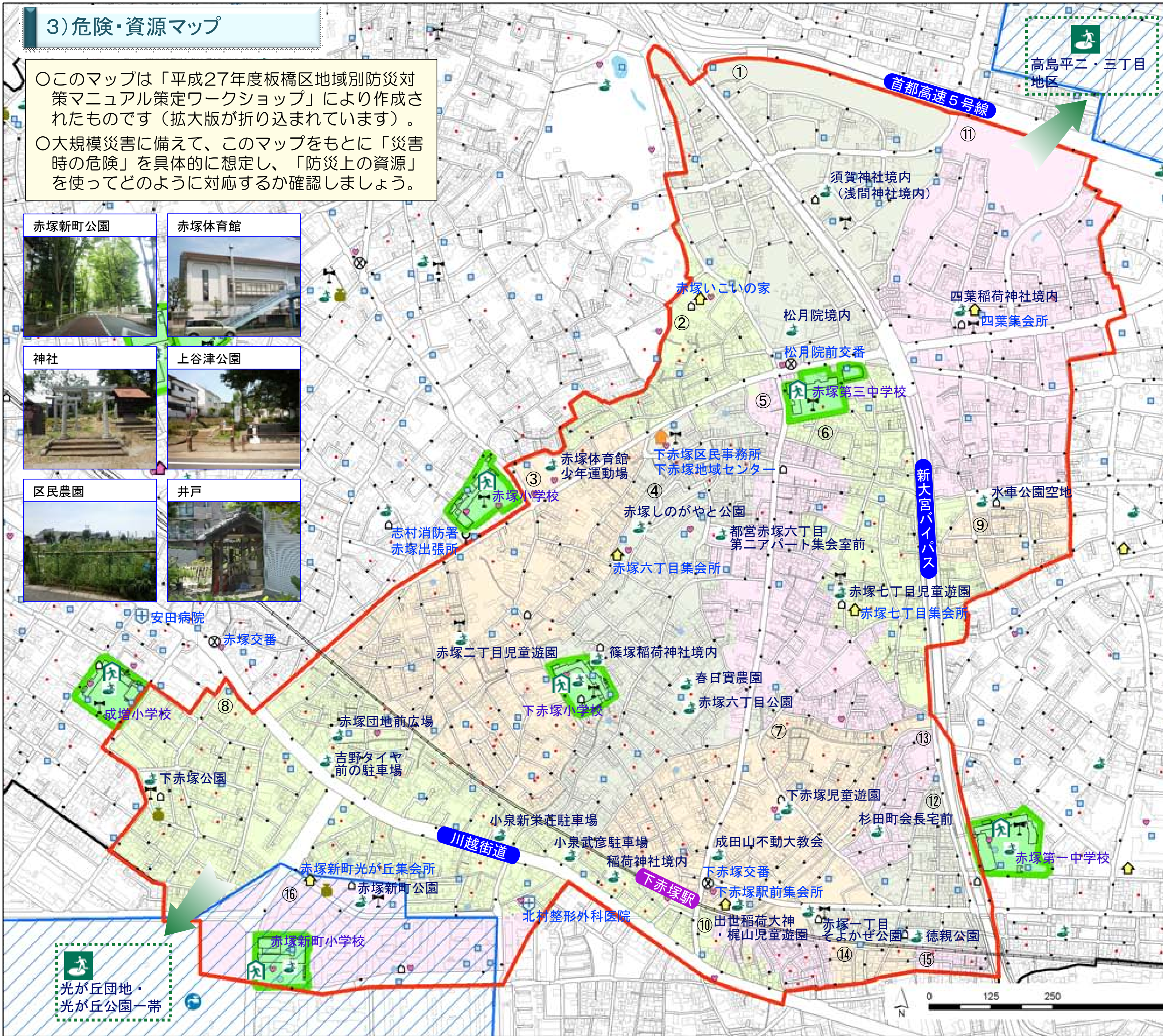
2. 防災上の資源

- 情報の収集・伝達に関するもの
 - 防災行政無線放送塔
(小中学校や公園など区内 165 か所)
 - 拡声器等の情報伝達に必要な資器材
- 消火に関するもの
 - 消防団・区民消火隊・住民防災組織の格納庫
 - 消火栓、防火水槽、井戸、街頭消火器
- 火災等からの避難に関するもの
 - 一時集合場所、避難場所
 - 公園や広場等の空地
- 救出・救護に関するもの
 - 救出・救護用資器材
 - 病院、薬局
 - 要支援者を搬送するための担架やリヤカー
- 避難生活に関するもの
 - 避難所 □ 福祉避難所
- 備蓄物資（住民防災組織格納庫、備蓄庫等）
 - 位置 □ 管理状態 □ 周辺状況
- 風水害に関するもの
 - 土のうステーション

3)危険・資源マップ

○このマップは「平成27年度板橋区地域別防災対策マニュアル策定ワークショップ」により作成されたものです（拡大版が折り込まれています）。

○大規模災害に備えて、このマップをもとに「災害時の危険」を具体的に想定し、「防災上の資源」を使ってどのように対応するか確認しましょう。



・板橋区が所有するデータを用いていますが、データの精度の都合上、実際の位置と地図上の位置にずれがある可能性があります。

・この防災マップの作成にあたっては、株式会社ミッドマップ東京の承認を得て、背景図を使用しています。また地図の無断複写を禁じます。（利用許諾番号MMT利許第27028号-42）

防災上の資源

一時集合場所	防災行政無線放送塔
避難場所	住防・消防隊格納庫
避難所	AED設置場所
消火栓	土のうステーション
街頭消火器	消防署
防火水槽	警察署
防災協力井戸	救急病院
防災用深井戸	区役所・支所・区民事務所
災害時給水ステーション	地域センター
	区民集会所・ホール ふれあい館・いこいの家

その他防災上の資源（写真一部掲載）
公園、児童遊園、神社、空地、体育館、駐車場、事業所敷地、緊急交通路、抜け道、消防団資器材倉庫、井戸、採水口、豊かな樹木、区民農園、農地、病院、医院、コンビニ、電気店、工務店、自動車整備工場、災害対応自動販売機、区防災研修センター

災害時の危険

地盤（崩壊） 旧河川沿いの地震に弱い地盤 高低差のある宅地（内水氾濫）	道路（閉塞・通行支障） 狭あい道路 行き止まり路 坂道・クランク 見通しが悪い十字路 電柱・踏切 幹線道路（新大宮バイパス等）の渋滞 高速道路からの流入 幹線道路をまたぐ横断歩道（倒壊） 地区内道路（松月院通り等）の渋滞
建物（火災・崩壊） 木造密集市街地 老朽木造家屋・空き家 ブロック塀・高い塀 ビルの大きなガラス（落下） マンション（生活支障）	

町会・自治会（住民防災組織）

①大門町会 ②野口町会 ③上谷津町会
④篠ヶ谷戸町会 ⑤番匠免町会 ⑥下寺家町会
⑦梶山町会 ⑧赤塚新町町会 ⑨四葉台自治会
⑩赤塚新町一丁目町会 ⑪四葉町会 ⑫徳親会
⑬赤塚自治会 ⑭四葉団地自治会 ⑮南四葉町会
⑯光が丘ゆりの木北自治会

支部域 板橋区域
町会、自治会区域

ポイント！

地震による被害が、いつまでどのような形で続くのかを示す「被災シナリオ」と、それへの対応を、どのように行えば良いのかを示す「対応シナリオ」を確認し、いざというときには地域住民で協力して、適切な行動がとれるようにしましょう。

(1) 「被災・対応シナリオ」の考え方

1) 「被災シナリオ」の考え方

わが地区ではどのような被害が発生するか、発災から 72 時間までの時間の流れに沿って想像するために、「被災シナリオ」を例示します。

— p15 左に詳しく！ —

2) 「対応シナリオ(自助)」の考え方

「対応シナリオ(自助)」では、「被災シナリオ」に対応して、自分や家族の6つの行動手順(①安全確保・状況把握、②初期消火・避難、③救出・救護、④組織活動への参加、⑤避難生活、⑥在宅避難)を時系列で例示します。

— p15 右に詳しく！ —

3) 「対応シナリオ(共助)」の考え方

「対応シナリオ(共助)」では、「被災シナリオ」に対応して、自分や家族の身の安全を確保した後、地域を守るために地域住民でどのように立ち向かっていくのかについて、3つのシナリオ(①建物倒壊、②建物火災、③道路閉塞)に分けて時系列で例示します。

— p16 から詳しく！ —

知っておくと便利！

対応シナリオ(共助)の基本パターン

「対応シナリオ(共助)」を考えるにあたり、災害後の応急対応には、共通する行動パターンがあることを押さえておく役立ちます。

たとえば、いずれの応急対応を行う場合でも、まずは、①地域住民が集まり、②被害状況を把握するところから始まります。「いつ、どこで、どのような被害が発生しているか」、その集まった被害情報をもとに、③応急対応の優先順位づけをします。

その優先順位に沿って、④活動方針を決め、⑤活動体制を組み、活動に必要な⑥資器材を集め、⑦応急活動を実施します。

パターン通りにいかない場合も想像しながら、シナリオを考えましょう。



(2) 下赤塚地区「被災・対応シナリオ(自助)」

